



ゆざわのまち・ひと・しごと

おらがひと

湯沢市観光物産協会 事務局長 ^{まぎ りゅうすけ} 眞木 竜助 さん

今年6月、37歳の若さで湯沢市観光物産協会の事務局長に就任した眞木竜助さんに、今夏の七夕絵どうろうまつりや今後の目標について、お話を聞きました。

歴史と伝統を土台に、さまざまなか交流を

—事務局長就任後、初めての大きなイベントとなった絵どうろうまつりを終えた感想を教えてください。

コロナ禍前からすれば、お祭り全体が簡素化してしまったと感じた方がいるのではないかと思います。しかし、制限のあるなかで、新しい企画に取り組み、既存のものよりも趣向を凝らすなど、地域のかたがたの連携の力強さ、伝統に対する愛着を、改めて実感する機会となりました。

—コロナ禍を経て、変化を感じることはありますか。

お客様の観光に対する意欲は、お問い合わせの状況からみても、コロナ禍以前に戻っているように感じます。新たな旅行先を模索しているであろうこの絶好のタイミングに積極的な情報発信を行うことが、湯沢市を知ってもらうチャンスではないかと考えています。



現場作業もこなします (湯沢市観光栗園)

—インバウンド需要に対してはどのように考えていますか。

私自身以前は宿泊業に携わっていたこともあり、湯沢市へ着地後の受け入れ態勢など、まだまだ課題が多いと感じています。引き続き、関係団体と連携し、海外のかたがたのニーズに合ったプランなどを提供したいと考えています。

—事務局長になる前と現在では、どのような意識の違いがありますか。

判断を求められること、決定権

が自分にあるということに、責任プレッシャーをかなり感じます。しかし、若く、経験の浅い自分が任命されたということは、何か意味があるのだろうと感じています。それは、イメージを変えることであったり、意識改革というようなことかもしれませんが、自分なりに模索しながら、頑張っていきたいと思っています。

—最後に、眞木さんがこれからチャレンジしたいことを教えてください。

今ある湯沢の魅力・資源を市民の皆さんに知ってもらうきっかけづくりをすることも協会として大事なことです。個人的には、グリーンツーリズムを通じて市民の皆さんの参加・交流を展開できたらと思っています。

私は、地域のかたがたが参加するものが「お祭り」だと思っています。何百年と続いてきた歴史と伝統という土台を大切にしながら、地域への経済効果が生まれるよう集客を図り、さまざまな交流を通じて、市民の皆さんと一緒に湯沢市を盛り上げていきたいと考えています。